

平成14年度教育行政執行方針



市民と行政による協働のまちづくり②

平成14年度

教育行政執行方針 (要旨)

はじめに

◎我が国の教育は、能力、適性、意欲に応じた平等に教育の機会が保障されるべきという「教育の機会均等の実現」を基本理念として掲げ、教育を重んじる国民性とあいまって我が国の発展の原動力となってきたところであります。

◎その一方で、少子化や核家族化、都市化の進展とともに、これまで子どもたちに対人関係のルールを教え、自己規律や共同の精神をはぐくみ、伝統文

化を伝えるといった役割を担ってきた家庭や地域社会の「教育力」の著しい低下や児童生徒の多様な能力・適性などに十分に対応出来ない画一的な学校教育などが、「いじめ」や「不登校」、青少年の非行問題の深刻化などのさまざまな問題が生じる背景となっているのが現状であります。

昨年11月、文部科学省では、社会の存在基盤である教育について、その振興と改革を着実に推進していくため、教育振興基本計画の策定と教育基本法

の在り方について中央教育審議会に諮問したところであります。

◎また、「二十一世紀教育新生プラン」に基づき国民の学校教育への信頼を取り戻し、「学校が良くなる、教育が変わる」ことが実感できるような教育改革が引き続き推進されているところであります。

◎本年4月から、完全学校週五日制の下で全面实施となる新学習指導要領では、「ゆとり」の中で「特色ある教育」を展開し、子どもたちの豊かな人間性を基礎・基本を身に付け、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を育成することを基本的なねらいとして、これまでの知識偏重の教育ではなく、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などまでを含めて「学力」ととらえるものでありますので、教育委員会としても各学校の教育課程の編成を支援するとともに、趣旨を十分に踏まえ、教育の求める今日的課題に適切に対応し、心豊かでたくましい人間性をはぐくむ「登別らしい教育」の推進に努めてまいります。

◎本年4月にオープンする自然体験宿

泊施設「ネイチャーセンター」を拠点とする自然体験学習やコンピュータ機器の整備に伴う情報教育、さらには、ボランティア活動の実践など地域に根ざした特色ある学校教育活動が推進されるよう支援してまいります。

◎また、少子化現象の中、中卒者の急激な減少から、公立高等学校適正配置計画の狭間にあつて、大幅な定員割れに悩む市内私立高等学校に対して、これまで建学精神に基づき全道的にも特色ある教育活動を展開しておりますので、なお一層この教育活動が推進されるよう支援してまいります。

◎また、小・中学校間におけるコンピュータのネットワーク化が終了したことから、教育委員会内に「教育情報センター」を設置し、情報教育が円滑に進められるよう努めてまいります。

◎教育委員会といたしましては、今後とも、国の教育施策を十分に見極めながら、「登別市総合計画」を基本とし、「豊かな個性と人間性をはぐくむまちづくり」の実現を目指すとともに、教育の諸課題に適切に対処し、諸般の施策を推進してまいります。

◎本年4月にオープンする自然体験宿



登別市教育長 武田 博

心豊かでたくましい人間性をはぐくむ「登別らしい教育」を進めます。